傷心に泣く学童達

松屋デパート課長 学童を欺しスト破り

十一月七日夜、大牟田再建市民運動本部では、〝スト止めろ〟の提灯行列を催したが、この行進には熊本県山鹿市の中学校のブラスバンドが先頭に立つて、鳴物入りの行進がつづけられた。ところが、このブラスバンドの中学生たちは、「産業祭」の名のもとに招かれたものだつただけに提灯行列が産業祭りどころか、スト破りを行つていたことがわかり、いま山鹿市をはじめ、熊本県の教育界では大きな問題に発展しているとともに、純真な子供をだまして大牟田へつれて来た松屋デパート片山〝風宣伝課長に、非難がごうごうと高まつている。

十一月七日夜、大牟田再建市民運動本部では、三井とつながる町内ボスや関連事業所のオエラ方の家族を動員して提灯行列をおこなつた。いらいまでもなくこの提灯行列は、三鉱労組の闘争を妨害しようというのである。この行列の先頭に山鹿中学のブラスバンドが先行したのであるが、ことの真相はこうである。

気づいた時は遅かつた

再建本部では提灯行列を華やかなものにしようと音楽隊を思いつき自衛隊や、市内のキャバレーなどの楽団へ頼んだもようだが、いずれも断られてしまつた。

自衛隊はともかく、市内の楽団は大地評傘下の組合員、家族などが入つているため、闘争に反対する行事にはとんでもないと、あつさり拒絶されたのである。

ここで目をつけたのが山鹿中学のブラスバンドだ。同校の音楽隊は全国中学校の音楽コンクールに美事一位をとつているほど、技術的にも高い評価をとつており、大牟田市にも二、三回招かれてきたことがあつた。

十一月五日、松屋デパートの片山〝風宣伝課長が山鹿市役所へ姿をみせ、森川観光課長を訪れ「例年大牟田市では産業祭をやつている今年は大牟田市から不景気を一掃するため盛大にやりたいので、山鹿中学の音楽隊を借して頂きたい」と申入れた。

同音楽隊はこれまで二、三度大牟田に呼ばれたこともあり、また松屋の宣伝課長の言葉でもあり、そのままうけとつて承諾したのである。

七日午後六時に一行は大牟田についた。提灯などもあり、産業祭だろうと感心していたが、せき立てられて食事をとらされ、行進の先頭についたが、このとき引率者は事の様子が変なのに気がついたが既に行進は始まり、いかんともしがたかつた。こうして行列がおこなわれたのである。

全く卑怯なやり方

三鉱労組や熊本県教組では早速調査にのり出し吉賀山鹿市長、森川観光課長に抗議を行つた。両氏ともだまされたとはいえ、ことの重大さを知り、陳謝するとともに、森川課長は十日松屋へ抗議を行うとともに謝罪文を要求、また熊本県教組も代表者が三鉱労組を訪れ「この問題は明らかに大牟田再建市民本部の卑怯なやり方だ、はつきりした態度をとりたい」と述べ再建本部に抗議文を発することになつた。

また熊本県教組では九日吉庄委員長ほか組合三役が山鹿市教組を訪れ、一切のてんまつを三鉱労組に報告している。

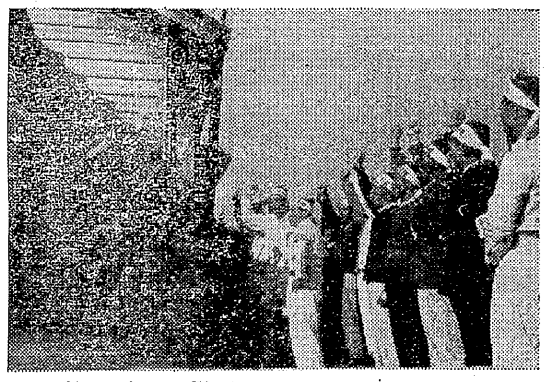
なお、政治局としては九日県教組とタイアップして、教育長に厳重な抗議を申入れるとともに、大牟田の再建市民運動本部側に対して何らかの態度を明らかにすべきだということを、あわせて申入れた。

再建本部に批判集中

問題となつた山鹿中学では、生徒同志が自治会で批判しあい音楽部の生徒たちは、純真な心を大人たちに傷つけられ、しょんぼりと肩をすぼめている。なお、音楽部を辞めさせる父兄もおり、来るべき全国コンクールにも参加できるかどうかと心配されている。

この事件については、山鹿中学は先頭に立つて交渉したが、大牟田再建市民運動本部のとつた態度に非常に立腹しており、学校全体が憤激している。

また山鹿中学のみならず、小中高校にも波及し、幼い子供を欺した態度に、熊本県の有識者は保守、革新をとわず峻烈な批判をおこなつている。



お互い頑張ろう

六氏を次々と激励

十一月十日の二十四時間スト、各支部では学習、交流激励など、分会ごとに行われた。三川支部ではさきに職場活動家の六名が、業務阻害というとんでもないいがかりをつけられて、解雇申入れをうけているが、この日六氏の分会では、激励大会が行われた。

原万田社宅には解雇申入れをうけた福島さんが居住しているが、福島さんの職場分会ではこの日三番方上りが全員、疲れた体もいとわず原万田にかけつけ、「われわれはさいごまで闘う。どうか福島さんも頑張つてくれ」と激励し、〝頑張ろう〟を三唱して力づけたまた、西原分会でも午前十一時すぎから激励大会をひらいて河野さんに対する激励を行つた。

闘争本部回り (3)

社宅に劣らぬ態勢

主婦は陣中見舞いで激励

玄関から入ると三つの部屋をぶつ通して闘争本部がつくられている家全体が闘争本部化している。外来分会は集団社宅と連つて、闘争本部設置に頭を痛めている。その中にあつて、ここ荒尾二小外来分会は、甲斐分会長宅を闘争本部として、ガツチリ固めた態勢は外来という種々の悩みを克服して美事なまでに充実した内部態勢を形成している。

ここは分会員一四一名、主婦二二八名という。

甲斐分会長は「一番感心するのは傍聴者の人たちです。不平不満もいわずに、分会長がいてもいなくても時間までは真剣に座つて、頑張つて貰つている。三番方のときなど、私は寝ている気色がしない」と感心していた。

本部の壁には勤務表がズラリとはられ、出欠は一目りよう然、この他に着到も各班ごとにつくられ、各班長がガツチリつかんで本部に報告しているため、実員はいつも把握しているという。

外来という広範囲のため連絡不充分はよくいわれるところだが、この分会では、日頃から月三回は班長会議をやり意思の統一をはかるとともに、中央、山元情勢もくり返し情宣し、本部、支部から指示のない時でも、要にある広場に集まつて貰つて、納得の行くまで情宣を繰返している。

また分会独自の指示、通達をはじめ、せひ知つていなければならない問題は、時を移さずガリ刷りで全員に流す周到さで、すでに毎月四、五十枚が配られている。この他毎日最低一回班長さんは受持ちを一軒一軒訪れるなど、水ももらさぬ連絡ぶりを示している。このことは動員にジカに反映して、遠いところは一里近くもある分会員をかかえているのに、約四十五分で九二%が集つている。

こういう工合に外来という壁を破つて、見事な団結を示しているのは、分会長を軸とする、分会員の日常からの努力がつみ重ねられた結果であろう。

物事に几帳面な甲斐分会長の性格が大いに分会に反映しているようである。闘争本部につめない主婦たちは、自分たちのせめてもの真心をと、木炭やお茶など陣中見舞して、闘いの中心を支えている。闘争本部設置いらい、夜遅くまでつめかけるので、甲斐さん一家は午後十一時半以前は就寝したことがないというが「闘争ですよ」と笑つて述べていた。

分会旗も高々と闘争本部

映画

戦場のヒューマニズム 謳つた ベストセラー小説の映画化

人間の条件 (第三部 第四部)

満蒙の北満。関東軍の一部隊では、梶（仲代達矢）たち初年兵が連日厳しい訓練を受けていた。一日の激しい日課を終えて死んだように眠つていた初年兵たちは、突然起され、板内上等兵（積村鎮二郎）に殴られた。防火用水に煙草の吸殻が落ちていたからだ。それは吉田上等兵（南道郎）の捨てたものだつたが、班内当番の小原二等兵（田中邦衛）は、「たるんどるぞ！貴様は」吉田上等兵からも殴られた。こうした小原を、何かと助けて励ますのが梶二等兵だつた。古兵によるビンタからビンタへの毎日がこうして続いていつた。丁度その頃、梶の安否を気づかう美千子（新珠三千代）から、工藤中隊長（城所英夫）に、特殊工人斬首事件での梶の無罪を訴える手紙が来た。それは知つて梶を不利な立場に追ひ込んだ。新城二等兵（佐藤慶）も、日野准尉（多々良純）ににらまれていたが、それは彼の実兄が思想犯であり、彼もアカと目されていたからだ。梶と新城は自然と親しくなり、それがまた古兵や上官の疑惑を深めていつた。

陸軍記念日の夜、新城と梶は週番下士官曽我軍曹（青木義朗）の命で便所掃除をやらされていた。

「ここから逃げ出したい」という新城に、「女房と一緒にもう一度生き直す約束を、私はして来ました……このままで帰りたい、帰らなければならない」と梶は、まるで自分自身にいいきかすように、きつぱり答えるのだつた。とうとう梶に会いに、考房嶺から三十キロの道を美千子がやつて来た。

「美千子！……」

「来てしまたわ！」

個室の中で口ではいいつくせない思いに、二人はひしと抱き合つた

【22日から大天地で】

約束無視を追及

立入禁止で口答弁論

十一月五日午前十時から福岡地裁大牟田支部で、三川支部林、下田名が憤りをこめてみつめる中でひらかれた。

野田裁判長に対し立入り禁止仮処分決定に当つて組合側の意見を聞かないで、一方的な会社のいい分だけで決定した理由について激しい追及が行われた。

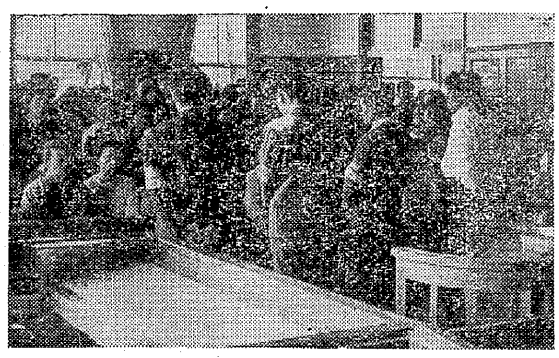
組合側は会社が出した命令申請書を、裁判所は、欺されて仮処分決定をしたとしか思えない本件は現場もみていない、ほんとうに会社が申請したように三職場分会長が入坑すると、今にも坑内が爆発するような、申請をされているが、実際に現場をみたかどうか。むしろ保安については組合は永い間保安闘争を通じて組合員自からの人命を守るために努力してきたはずだ。坑内保安で大切なのは人命であり、自からの命を守るために労働者こそが真面目に考えていると思うが裁判所はどう考えるのか。

と追及した。また第一回弁論が開かれる前に行われた三分会長に対する事前で会社の命令申請書に対する組合の反対理由については、十月九日まで具体的に組合が資料を整備して提出する約束だつたのに、その約束を無視して十月八日の午後四時に裁判所が決定をした理由は何故か。

と核心をつき追及が行われた。これに対して裁判所は「緊急性があつたからだ」と逃げ、何ら正論をもつてこなかつた。

組合の意見を聞かないで勝手に会社だけの申請によつて、裁判所が勝手に決定したいきさつについては、組合側の八名がつぎつぎと追及を行つたが、次回弁論は十二月七日同法廷で開催される。

【写真は傍聴者に挨拶する三氏】



岩山三職場分会長の三川鉱立入禁止仮処分決定に関する、異議申立ての第一回口答弁論が開催された組合側からは諸山、谷川、彦坂三弁護士と蒲川県議、谷端三川支部長が特別弁護人となり、これら八名が出席し、各支部から動員された組合員、主婦会員を含んだ八百

我慢しても涙が

岡山から激励の手紙

去る十四日組合本部へ「三作の二十二人の兄弟に」という手紙が届いた。送り主は岡山県久米郡柵原町の柵原鉱業所労働組合の佐藤朝男さんからである。

八日の決起大会に参加した佐藤さんは、二十二名の仲間の闘いを聞き、感激のうちに帰られたが、この感激をつぎのような手紙で寄せられたのである。

皆様の御報告をきき、私は敵に対してかつてない憎しみをおぼえました。いくらがまんしても涙の出るのをおさえる事が出来ませんでした。九州から帰つて社宅の主婦会に話していますが、みんな泣いてきいてくれました。

三池の皆様の支援と合せて、三作二十二人の皆様が最後まで頑張つて下さるようお願い致します。苦しい時には、あの七万の大集会の人の拍手の音を想い出して下さい。そして今や、全国のヤマの中、町の中で、皆様のことが話されている事を思い出して下さい。

団結と勝利を祈る。

同志愛で稲刈

宮浦行動隊が三作同志の家庭へ

宮浦支部行動隊では、去る十一月四、六日の二日間にわたつて、稲刈り奉仕に汗を流した。

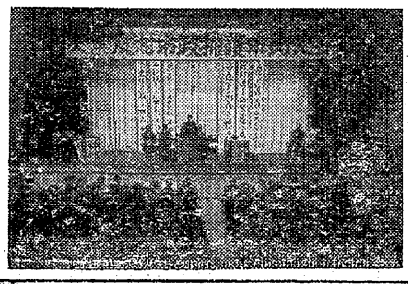
行動隊では製作支部脱落に反対して闘つている、三作の仲間たちの激励にまわつていたが、たまたま市内横の松尾さん宅を訪れてみると、松尾さんが欠勤をしていることを知つた。

話を聞くと刈入れなどでどうしても家の仕事を放つたらかすわけはいかないという。

連日三作の二十二名の仲間たちは主婦会員などの送り迎えで出退勤して頑張つているとき、一人でも欠けたらみんなが心配することを知つている隊員たちは、家のことは私たちが引受けるから、松尾さんは他の仲間と一緒にいままで通り頑張つてくれと、ついに農村交流もかねて、この稲刈り奉仕に行つたものである。

闘争の中でますます固く結ばれる労働者同志の心と心は、この稲刈りに美しい話をきかせている。

なお、宮浦支部行動隊では、昨年も南関地区へ労農提携は実践から、稲刈りに進出するなど、対外活動をさかんにつづけている。



失業反対 市民大会

失業反対大牟田市民協議会では十二日午後六時から民主団体十二団体主催で、市民会館約二千名が集つて市民大会を開いた。大会は三鉱労組への激励決議、会社への勧告決議を行い、運動に立上つた。